

<応用生物化学科> (認定課程: 高等学校教諭一種免許(理科))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	・教科に関する科目では、理科系科目全体を理解するために必要な基礎的な能力の基礎を構築する。 ・オリエンテーション等で教職課程の授業について知る。66条の6に定める科目の履修を開始する。
	秋学期	・教科に関する科目では、理科系科目全体を理解するために必要な基礎的な能力を充実させる。これらの基礎知識に基づいて生命科学の基礎知識を構築すると共に、基礎的な実験を実施することができる能力を育てる。 ・ボランティア等教職につながる活動に積極的に取り組む。66条の6に定める科目を履修する。
2年次	春学期	・教科に関する科目では、1年次に築き上げた基礎知識に基づいて生命科学の基礎知識を充実させ、生命現象を理解できる能力を育てる。生命現象を実証するための実験を実施することができる能力を育てる。 ・教職概論などの教職についての基礎理論を学び、教職課程の心構えをつくる。66条の6に定める科目の履修を完了する。
	秋学期	・教科に関する科目では、2年次春学期までに築き上げた基礎知識に基づいて、生命現象を理解できる能力を育てる。生命現象を実証するための実験を実施することができる能力を育てる。 ・教育原論などにより教育の意義・方法についての基礎理論を学ぶ。
3年次	春学期	・教科に関する科目では、2年次春学期までに築き上げた基礎知識に基づいて、生命科学研究に不可欠な技術を用いた実験を実施することができる能力を育てる。 ・理科教育法Ⅰを中心に指導の内容と方法についての理解を深める。
	秋学期	・教科に関する科目では、2年次春学期までに築き上げた基礎知識に基づいて、生命科学研究に不可欠な技術を用いた実験を実施することができる能力を育てる。 ・理科教育法Ⅱを中心に指導の内容と方法についての理解を深め、教育実習の準備をする。
4年次	春学期	・教科に関する科目では、これまでに築き上げた知識と技術に基づいて、卒業研究を通じて最先端の生命科学研究に取り組み、最先端の技術と知見を理解することができる能力を育てる。 ・教育実習に臨み、学校現場の実践から学ぶ。
	秋学期	・教科に関する科目では、卒業研究を通じて各分野の総仕上げを行う。 ・教職実践演習等を通じて、教職履修の総仕上げを行う。

(2) 履修モデル

履修年次		具体的な科目名称						
		教職に関する科目			教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	春学期				基礎化学		健康科学	スタートアップセミナー
					基礎生物学		英語スキルⅠ	
					基礎地学		情報スキル入門	
	秋学期				有機化学Ⅰ			
					基礎生物学・基礎化学実験		日本の憲法	
					有機化学Ⅱ		英語スキルⅡ	
2年次	春学期				生物化学Ⅰ		情報スキル活用	
					微生物学Ⅰ			
					分析化学実験			
	秋学期				分子生物学Ⅰ			
		1	ABC	教職概論	生物化学Ⅱ		スポーツA	
		2	A	教育史	有機化学実験		英語スキルⅢ	
3年次	春学期				微生物学実験			
					分子生物学Ⅱ			
	秋学期	2	A	教育原論	細胞生物学		スポーツB	
		2	B	教育心理	生物化学実験A		英語スキルⅣ	
		3	B	教育方法論	生物化学実験B			
4年次	春学期				生物有機化学			
		3	A	教育課程総論	基礎物理学			
		3	B	理科教育法Ⅰ	分子生物学実験			
	秋学期	3	C	特別活動				
		4	AC	生徒指導・進路指導				
集中	2	C	学校経営論				卒業研究	
	6		教職実践演習(中・高)				卒業研究	
	5		教育実習A					

<応用生物化学科> (認定課程: 高等学校教諭一種免許(農業))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	・教科に関する科目では、農業の場となる環境と環境問題について学習し、農業科教育に必要な基礎知識の基盤を構築する。 ・オリエンテーション等で教職課程の授業について知る。66条の6に定める科目の履修を開始する。
	秋学期	・教科に関する科目では、農業の場となる環境の状態を理解するために必要な分析化学に関する基礎知識の基盤を構築する。 ・ポランティア等教職につながる活動に積極的に取り組む。66条の6に定める科目を履修する。
2年次	春学期	・教科に関する科目では、農業が産み出す食品について知識と技術を講義と実験を通じて身に付ける。 ・教職概論などの教職についての基礎理論を学び、教職課程の心構えをつくる。66条の6に定める科目の履修を完了する。
	秋学期	・教科に関する科目では、環境についてさらに理解を深めると共に、植物や微生物およびこれらの生物が産生する物質に関する知識の基盤を構築する。 ・教育原論などにより教育の意義・方法についての基礎理論を学ぶ。
3年次	春学期	・教科に関する科目では、環境と生物との関係についての理解を深めると共に、植物や微生物を構築する物質についての理解を深める。 ・理科教育法Ⅰを中心に指導の内容と方法についての理解を深める。
	秋学期	・教科に関する科目では、講義と実験を通じて植物や微生物の応用についての理解を深める。 ・理科教育法Ⅱを中心に指導の内容と方法についての理解を深め、教育実習の準備をする。
4年次	春学期	・教科に関する科目では、これまでに築き上げた知識と技術に基づいて、卒業研究を通じて最先端の農業研究に取り組み、最先端の技術と知見を理解することができる能力を育てる。 ・教育実習に臨み、学校現場の実践から学ぶ。
	秋学期	・教科に関する科目では、卒業研究を通じて各分野の総仕上げを行う。 ・教職実践演習等を通じて、教職履修の総仕上げを行う。

(2) 履修モデル

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教職に関する科目			教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連する科目
		科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	春学期				環境問題入門		健康科学	スタートアップセミナー
							英語スキルⅠ	
	秋学期						情報スキル入門	
2年次	春学期				分析化学		日本の憲法	
							英語スキルⅡ	
	秋学期						情報スキル活用	
3年次	春学期	1	ABC	教職概論	食品化学基礎実験		スポーツA	
		2	A	教育史	食品化学Ⅰ		英語スキルⅢ	
					農学概論			
	秋学期	2	A	教育原論	応用微生物学		スポーツB	
		2	B	教育心理	天然物化学		英語スキルⅣ	
		3	B	教育方法論	食品化学Ⅱ			
4年次	春学期				食品分析学			
					環境化学			
		3	A	教育課程総論	天然物化学実験			
	秋学期	3	B	農業科教育法Ⅰ	応用タンパク質科学			
		3	C	特別活動	微生物生態学			
		4	AC	生徒指導・進路指導	応用微生物学実験			
5年次	春学期	2	C	学校経営論	食料資源流通学			卒業研究
	秋学期	6		教職実践演習(中・高)	環境動物学			卒業研究
					自然保護論			
集中	5		教育実習A					

<環境生物科学科> (認定課程: 高等学校教諭一種免許(理科))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	・教科に関する科目では、化学、生物学、地学に関する基礎を学習させる。 ・オリエンテーション等で教職課程の授業について知る。66条の6に定める科目の履修を開始する。 ・教職活動全体を理解する基礎的な能力を育てる。
	秋学期	・教科に関する科目では、化学に関する基礎を学習させるとともに、実験を通して理解を深める。 ・ポランティア等教職につながる活動に積極的に取り組む。66条の6に定める科目を履修する。
2年次	春学期	・教科に関する科目では、化学、生物学、地学の学習を発展させる。 ・教職概論などの教職についての基礎理論を学び、教職課程の心構えをつくる。66条の6に定める科目の履修を完了する。
	秋学期	・教科に関する科目では、化学や生物学に関する実験を通し、応用的な理論を学ぶ。 ・教育原論などにより教育の意義・方法についての基礎理論を学ぶ。
3年次	春学期	・教科に関する科目では、物理学や生物学に関する実験を通し、応用的な理論を学ぶ。 ・理科教育法Ⅰを中心に指導の内容と方法についての理解を深める。
	秋学期	・教科に関する科目では、物理学や地学に関する実験を通し、応用的な理論を学ぶ。 ・理科教育法Ⅱを中心に指導の内容と方法についての理解を深め、教育実習の準備をする。
4年次	春学期	・卒業研究を通して各分野を総合的に理解し、プレゼンテーション能力を養う。 ・教育実習に臨み、学校現場の実践から学ぶ。
	秋学期	・卒業研究を通して各分野を総合的に理解し、プレゼンテーション能力を養う。 ・教職実践演習等を通じて、教職履修の総仕上げを行う。

(2) 履修モデル

履修年次		具体的な科目名称						
		教職に関する科目			教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	春学期				基礎化学		健康科学	スタートアップセミナー
					基礎地学		英語スキルⅠ	
					基礎生物学		情報スキル入門	
	秋学期				有機化学Ⅰ			
					無機化学			
					基礎生物学・基礎化学実験		日本の憲法	
2年次	春学期				有機化学Ⅱ		英語スキルⅡ	
					生物化学Ⅰ		情報スキル活用	
					微生物学Ⅰ			
	秋学期				分析化学実験			
		1	ABC	教職概論	生物化学Ⅱ		スポーツA	
		2	A	教育史	分子生物学Ⅰ		英語スキルⅢ	
3年次	春学期				有機化学実験			
					地球環境学			
	秋学期	2	A	教育原論	分子生物学Ⅱ		スポーツB	
		2	B	教育心理	生物化学実験A		英語スキルⅣ	
		3	B	教育方法論	生物化学実験B			
4年次	春学期	3	A	教育課程総論	基礎物理学			
		3	B	理科教育法Ⅰ	分子生物学実験			
		3	C	特別活動				
	秋学期	4	AC	生徒指導・進路指導				
		2	C	教育行政学	基礎物理学・基礎地学実験			
		3	B	理科教育法Ⅱ				
集中	4	B	学校教育相談					
	2	C	学校経営論				卒業研究	
	6		教職実践演習(中・高)				卒業研究	
5		教育実習A						

<環境生物科学科> (認定課程: 高等学校教諭一種免許(農業))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	・教科に関する科目では、農業に関する基本的な問題点を認識する。 ・オリエンテーション等で教職課程の授業について知る。66条の6に定める科目の履修を開始する。 ・教職活動全体を理解する基礎的な能力を育てる。
	秋学期	・教科に関する科目では、農業と自然に関する基礎を学習する。 ・ボランティア等で教職につながる活動に積極的に取り組む。66条の6に定める科目を履修する。
2年次	春学期	・教科に関する科目では、生物学や化学の基礎を学ぶと共に基礎実験を通して応用理論を学ぶ。 ・農学概論で、農学の全般的な知識を身につける。 ・教職概論などの教職についての基礎理論を学び、教職課程の心構えをつくる。
	秋学期	・教科に関する科目では、生物学や化学に関し発展的な学習をする。 ・教育原論などにより教育の意義・方法についての基礎理論を学ぶ。 ・66条の6に定める科目の履修を完了する。
3年次	春学期	・教科に関する科目では、農業分野に関連した生物学に関し発展的な学習をすると共に、実験を通し応用的な理論を学ぶ。 ・農業科教育法Ⅰを中心に指導の内容と方法についての理解を深める。
	秋学期	・教科に関する科目では、環境分析に関連した実験や授業を通し、応用的な理論を学ぶ。 ・農業科教育法Ⅱを中心に指導の内容と方法についての理解を深め、教育実習の準備をする。
4年次	春学期	・卒業研究を通して各分野を総合的に理解し、プレゼンテーション能力を養う。 ・教育実習に臨み、学校現場の実践から学ぶ。
	秋学期	・卒業研究を通して各分野を総合的に理解し、プレゼンテーション能力を養う。 ・教職実践演習等を通じて、教職履修の総仕上げを行う。

(2) 履修モデル

履修年次		具体的な科目名称						
		教職に関する科目			教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	春学期				環境問題入門		健康科学	スタートアップセミナー
							英語スキルⅠ	
	秋学期						情報スキル入門	
						分析化学		日本の憲法
2年次	春学期	1	ABC	教職概論	食品化学基礎実験		スポーツA	
		2	A	教育史	食品化学Ⅰ		英語スキルⅡ	
	秋学期				農学概論			情報スキル活用
3年次	春学期							
	秋学期	2	A	教育原論	応用微生物学		スポーツB	
		2	B	教育心理	天然物化学		英語スキルⅣ	
4年次	春学期	3	B	教育方法論	食品化学Ⅱ			
					食品分析学			
	秋学期				環境化学			
3年次	春学期	3	A	教育課程総論	天然物化学実験			
		3	B	農業科教育法Ⅰ	応用タンパク質科学			
	秋学期	3	C	特別活動	微生物生態学			
		4	AC	生徒指導・進路指導	応用微生物学実験			
4年次	春学期							
	秋学期	2	C	教育行政学	職業指導			
		3	B	農業科教育法Ⅱ	植物細胞工学			
集中				学校教育相談	ケミカルバイオロジー			
4年次	春学期	2	C	学校経営論	食料資源流通学			卒業研究
4年次	秋学期	6		教職実践演習(中・高)	環境動物学			卒業研究
					自然保護論			
集中	春学期							
集中	秋学期							
集中	春学期							
集中	秋学期							
集中	春学期							
集中	秋学期							
集中	春学期							
集中	秋学期							
集中	春学期							
集中	秋学期							

<食品栄養科学科食品栄養科学専攻> (認定課程:高等学校教諭一種免許(理科))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	・教科に関する科目では、基礎となる生物、化学、地学を学習させ、基本内容を習得して理科全般の基礎的な能力を育てる。 ・オリエンテーション等で教職課程の授業について知る。66条の6に定める科目の履修を開始する。
	秋学期	・教科に関する科目では、生物学・化学の基礎となる実験を開始する。春学期に学んだ基礎を元に生物化学や有機化学、微生物学の基本事項を学習させ、理科の複合領域を理解する能力を育てる。 ・ボランティア等教職につながる活動に積極的に取り組む。66条の6に定める科目を履修する。
2年次	春学期	・教科に関する科目では、1年次春学期の履修内容をさらに発展させて分子生物学や細胞生物学など、より高度な理科領域に関する内容を学習させる。有機化学や微生物学に関する実験を履修し、当該科目の知識・技術を習得し、実験指導の能力を育てる。 ・教職概論などの教職についての基礎理論を学び、教職課程の心構えをつくる。66条の6に定める科目の履修を完了する。
	秋学期	・教科に関する科目では、生物化学に関する実験を学習させ、実験を通じた当該科目の知識・技術を得て、実験指導の能力を育てる。 ・教育原論などにより教育の意義・方法についての基礎理論を学ぶ。
3年次	春学期	・教科に関する科目では、物理学の基礎や先端の遺伝子工学を学習させ、理科領域の幅広い知識を活用する能力を育てる。 ・理科教育法Ⅰを中心に指導の内容と方法についての理解を深める。
	秋学期	・教科に関する科目では、基礎物理学、基礎地学に関する実験を学習させ、幅広い実験経験を通じた知識・技術を得て、実験指導の能力を育てる。 ・理科教育法Ⅱを中心に指導の内容と方法についての理解を深め、教育実習の準備をする。
4年次	春学期	・教科に関する科目では、卒業研究を開始し、各分野の総仕上げに向けた学習を行う。 ・教育実習に臨み、学校現場の実践から学ぶ。
	秋学期	・教科に関する科目では、卒業研究を通じて各分野の総仕上げを行う。 ・教職実践演習等を通して、教職履修の総仕上げを行う。

(2)履修モデル

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教職に関する科目			教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連の科目
		科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	春学期				基礎化学		健康科学	スタートアップセミナー
					基礎生物学		英語スキルⅠ	
					基礎地学		情報スキル入門	
	秋学期				有機化学Ⅰ			
					無機化学			
					基礎生物学・基礎化学実験		日本の憲法	
2年次	春学期	1	ABC	教職概論	生物化学Ⅱ		スポーツA	
		2	A	教育史	分子生物学Ⅰ		英語スキルⅢ	
					細胞生物学			
					有機化学実験			
					微生物学実験			
					分析化学実験			
	秋学期	2	A	教育原論	生物化学実験A		スポーツB	
		2	B	教育心理	生物化学実験B		英語スキルⅣ	
		3	B	教育方法論	分子生物学Ⅱ			
					動物生理学			
3年次	春学期	3	A	教育課程総論	基礎物理学			
		3	B	理科教育法Ⅰ	遺伝子工学			
		3	C	特別活動				
		4	AC	生徒指導・進路指導				
	秋学期	2	C	教育行政学	基礎物理学・基礎地学実験			
		3	B	理科教育法Ⅱ				
	4	B	学校教育相談					
4年次	春学期	2	C	学校経営論				卒業研究
	秋学期	6		教職実践演習(中・高)				卒業研究
	集中	5		教育実習A				

<食品栄養科学科食品栄養科学専攻> (認定課程: 高等学校教諭一種免許(農業))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	・教科に関する科目では、農業の基礎となる食糧問題、環境問題を学習させ、基本内容を習得して農業を理解する基礎的な能力を育てる。 ・オリエンテーション等で教職課程の授業について知る。66条の6に定める科目の履修を開始する。
	秋学期	・教科に関する科目では、分析化学の基礎の学習を開始する。春学期に学んだ基礎を元に食品科学の基本事項を学習させ、農業に関する応用的な領域を理解する能力を育てる。 ・ボランティア等教職につながる活動に積極的に取り組む。66条の6に定める科目を履修する。
2年次	春学期	・教科に関する科目では、1年次の履修内容を発展させて食料資源に関する科目に加えて食品化学を学び、より高度な農業領域に関する内容を学習させる。食品化学に関する実験を履修し、当該科目の知識・技術を習得し、実験指導の能力を育てる。 ・教職概論などの教職についての基礎理論を学び、教職課程の心構えをつくる。66条の6に定める科目の履修を完了する。
	秋学期	・教科に関する科目では、食品化学や分析、微生物利用に関する発展的な内容を学習させ、環境化学についても学習して農業に関する応用的な能力を育てる。 ・教育原論などにより教育の意義・方法についての基礎理論を学ぶ。
3年次	春学期	・教科に関する科目では、これまでの履修内容を元にして食品製造や機能、食品開発など、より高度な農業領域に関する内容を学習させる。食品学や分析に関する実験を履修し、当該科目の知識・技術を習得し、実験指導の能力を育てる。 ・農業科教育法 I を中心に指導の内容と方法についての理解を深める。
	秋学期	・教科に関する科目では、卒業に関する内容を学習し、さらに食品製造に関する実習や食品栄養・機能に関する実験を学習させ、幅広い実験経験を通した知識・技術を得て、実験指導の能力を育てる。 ・理科教育を中心に指導の内容と方法についての理解を深め、教育実習の準備をする。
4年次	春学期	・教科に関する科目では、卒業研究を開始し、各分野の総仕上げに向けた学習を行う。 ・教育実習に臨み、学校現場の実践から学ぶ。
	秋学期	・教科に関する科目では、卒業研究を通じて各分野の総仕上げを行う。 ・教職実践演習等を通して、教職履修の総仕上げを行う。

(2) 履修モデル

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教職に関する科目			教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連の科目
		科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	春学期				食糧問題入門		健康科学	スタートアップセミナー
					環境問題入門		英語スキル I	
							情報スキル入門	
	秋学期							
						分析化学		日本の憲法
						基礎食品科学		英語スキル II
2年次	春学期	1	ABC	教職概論	食品化学基礎実験		スポーツA	
		2	A	教育史	食品化学 I		英語スキル III	
					食料資源流通学			
	秋学期				農学概論			
		2	A	教育原論	食品化学 II		スポーツB	
		2	B	教育心理	食品分析学		英語スキル IV	
3年次	春学期	3	B	教育方法論	応用微生物学			
					環境化学			
	秋学期	3	A	教育課程総論	食品学実験			
		3	B	農業科教育法 I	食品分析学実験			
		3	C	特別活動	食品製造加工学			
4年次	春学期	4	AC	生徒指導・進路指導	食品機能学			
					食品開発論			
		2	C	教育行政学	食品栄養・機能学実験			
	秋学期	3	B	農業科教育法 II	食品製造・加工学実習			
		4	B	学校教育相談	栄養生化学			
					職業指導			
集中	2	C	学校経営論				卒業研究	
	6		教職実践演習(中・高)				卒業研究	
	5		教育実習A					

<食品栄養科学科管理栄養科学専攻> (認定課程: 栄養教諭一種免許)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	・栄養に係る教育に関する科目「現代食育論」において、栄養教諭の役割や職務内容、幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題および食文化について学修する。 ・オリエンテーション等で教職課程の授業について知る。免許法施行規則66条の6に定める科目の履修を開始する。 ・関連科目としての食糧問題入門ではフードシステムを学修し、同時に、スタートアップセミナーを通して大学の教育目的を明確にする。
	秋学期	・管理栄養士養成課程の専攻専門科目として、フードサイエンスや生化学を基礎とする基本知識を学修し、食品の持つ機能性や安全性、人体機能を理解し、実験や実習を通して総合的な理解と技術を修得する。 ・ボランティア等教職につながる活動に積極的に取り組む。66条の6に定める科目を履修する。
2年次	春学期	・関連科目としての学部基礎科目や管理栄養士養成課程の専攻専門科目において、バイオテクノロジーに関する基礎知識を学修し、健康状態、疾病と栄養管理について理解する能力を育てる。同時に実験を通して総合的な理解をする。 ・教職概論などの教職についての基礎理論を学び、教職課程の心構えをつくる。66条の6に定める科目の履修を完了する。
	秋学期	・管理栄養士養成課程の専攻専門科目において、給食経営管理や臨床栄養、栄養教育の分野について学んでいく。 ・関連科目としての海外研修を通じて世界各国の栄養・食生活の特徴や異文化を理解し、栄養指導を行うことができるインターナショナルな能力を育てる。 ・教育原論などにより教育の意義・方法についての基礎理論を学ぶ。
3年次	春学期	・栄養に係る教育に関する科目「学校栄養指導論」において、食に関する指導に係る全体計画策定方法や、給食その他の関連科目や特別活動の時間での食に関する指導の進め方、家庭への働きかけや地域と連携する必要性や取組、食物アレルギーなどに対する特別な指導の必要性と注意点、そして学習指導要領の作成方法等について学修する。 ・同時に管理栄養士養成課程の専攻専門科目において、公衆栄養について学ぶとともに、栄養教育、臨床栄養、給食経営管理の分野についての理解を深めていく。実験や実習を通して総合的な理解と技術及び実践力を修得する。 ・教育課程論などで教育課程の編成や学生指導について学ぶ。
	秋学期	・管理栄養士養成課程の専攻専門科目において、科学に基づいた適切な栄養および診断から疾病予防や病後回復を促すことができる能力を育てる。同時に実習を通して総合的な理解と実践力を修得する。また、管理栄養士の仕事内容を臨地実習を通して理解する。 ・道徳教育の方法を中心に指導の内容と方法についての理解を深め、教育実習の準備をする。
4年次	春学期	・関連科目としての卒業演習や卒業研究を通して目標達成にむけての実践力を修得する。 ・管理栄養士養成課程の専攻専門科目において、多様な生活習慣や食習慣をもつ人々に対し健康管理や栄養指導を行うことができる能力を育てる。 ・教育実習に臨み、学校現場の実践から学ぶ。
	秋学期	・関連科目としての卒業演習や卒業研究を通して目標達成にむけての実践力を修得する。 ・教職実践演習を通して教職実習後の反省から課題を明らかにし、教職履修の総仕上げを行う。

(2) 履修モデル

履修年次		具体的な科目名称					
		教職に関する科目			栄養に係る教育に関する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称			
1年次	春学期				現代食育論	健康科学	スタートアップセミナー
						英語スキルⅠ	食糧問題入門
	秋学期					情報スキル入門	
							日本の憲法
2年次	春学期	1	ABC	教職概論		スポーツA	分子生物学Ⅰ
		2	A	教育史		英語スキルⅢ	細胞生物学
	秋学期	2	A	教育原論		スポーツB	海外研修
		2	B	教育心理		英語スキルⅣ	
3年次	春学期	3	D	教育方法論			
	秋学期	3	A	教育課程総論	学校栄養指導論		
		3	C	特別活動			
4年次	春学期	4	A	生徒指導(養護・栄養)			
	秋学期	2	C	教育行政学			臨地実習
		3	E	道徳教育の方法			
集中	4	B	学校教育相談				